



「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」

# 空白地域解消を目的とした 日本語教育機関と連携する体制づくり

令和4年6月21日

山梨県知事政策局 外国人活躍推進グループ 外国人活躍推進監 小宮山 嘉隆

山梨県総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター 古屋 玲子

# 1. 山梨県の在留外国人の状況



山梨県総人口  
803,297人

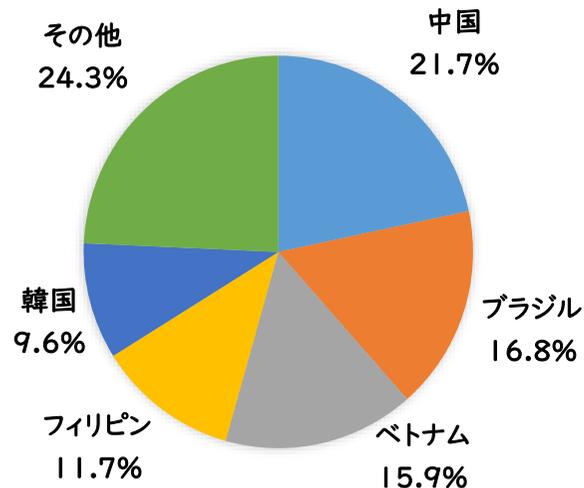
外国人人口  
17,185人

令和3年6月時点

## ◆ 山梨県の在留外国人人数・外国人の割合の推移 (単位：人、%)



## ◆ 国籍別



## ◆ 市町村別

市町村	外国人人数	シェア
甲府市	5,577	33.0%
中央市	1,980	11.2%
甲斐市	1,217	7.2%
笛吹市	1,182	6.7%
南アルプス市	1,141	6.7%
昭和町	770	4.5%
北杜市	716	3.8%
富士吉田市	624	3.6%
都留市	588	3.4%
韮崎市	530	3.3%
その他市町村	2,860	16.6%

## ◆ 在留資格別

資格	外国人人数	シェア
身分に基づく在留資格	10,357	60.3%
うち永住者	6,502	37.8%
うち定住者	1,921	11.2%
うち日本人の配偶者	1,233	7.2%
うち永住者の配偶者	268	1.6%
うち特別永住者	433	2.5%
特定技能	182	1.1%
技能実習	1,987	11.6%
専門的・技術的分野の在留資格	2,283	13.3%
うち技術・人文知識・国際業務	1,314	7.6%
留学・家族滞在等	1,931	11.2%
うち留学	923	5.4%
特定活動	445	2.6%

## 2. 事業実施前の状況

### ◆ 県内市町村日本語教室設置状況（2019年時点）

	市町村名	設置状況		市町村名	設置状況		市町村名	設置状況
1	甲府市	○	10	韮崎市		19	富士川町	○
2	中央市	○	11	富士河口湖町		20	身延町	
3	甲斐市	○	12	忍野村		21	南部町	
4	笛吹市		13	市川三郷町		22	鳴沢村	
5	南アルプス市	○	14	上野原市		23	西桂町	
6	昭和町	○	15	大月市		24	道志村	
7	都留市		16	甲州市		25	小菅村	
8	富士吉田市	○	17	山中湖村		26	丹波山村	
9	北杜市		18	山梨市		27	早川町	

### ◆ 民間団体所在地（市町村別）

市町村名	団体数
甲府市	5
中央市	1
甲斐市	1
都留市	1
富士吉田市	1
富士河口湖町	1

### 主な課題

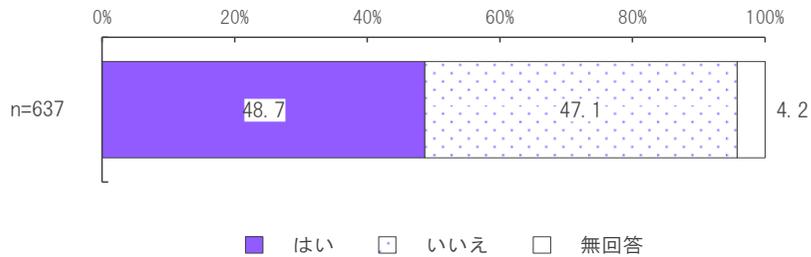
- ✓ 外国人が集住している地域に日本語教室が多く、外国人住民が少ない地域には設置されていない傾向で、**日本語教室の空白地域がある**。特に基礎自治体である市町村の日本語教室設置数は、県内27市町村中7市町に留まっていた。
- ✓ 一部の市町村からは、必要性を認識しているが、**予算や人員、日本語教育に係るノウハウがない**ことから、設置が困難であるとの声があがっていた。
- ✓ 市町村及び民間団体における日本語教室は一部を除いて、**日本語教育を専門的に学んだことのないボランティアの方が講師を務めている**。

### 3. 山梨県在留外国人アンケート調査結果

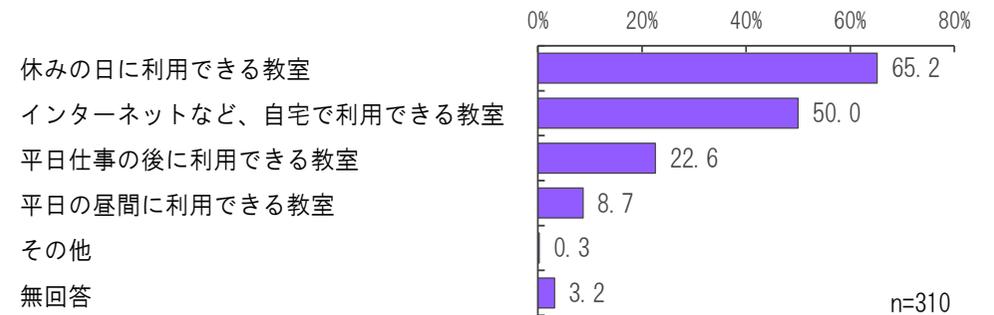


#### 「令和元年度山梨県在留外国人アンケート調査」実施結果（一部抜粋）

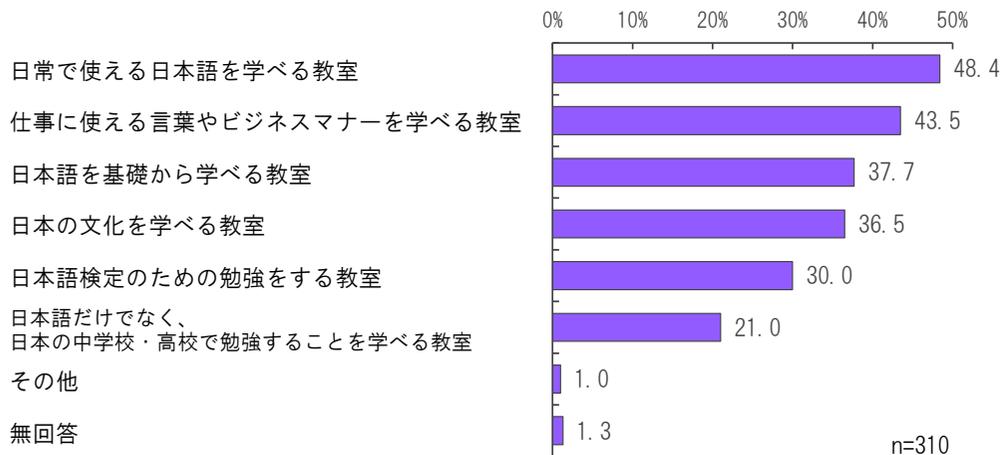
Q.日本語教室・日本語学校に行きたいか。



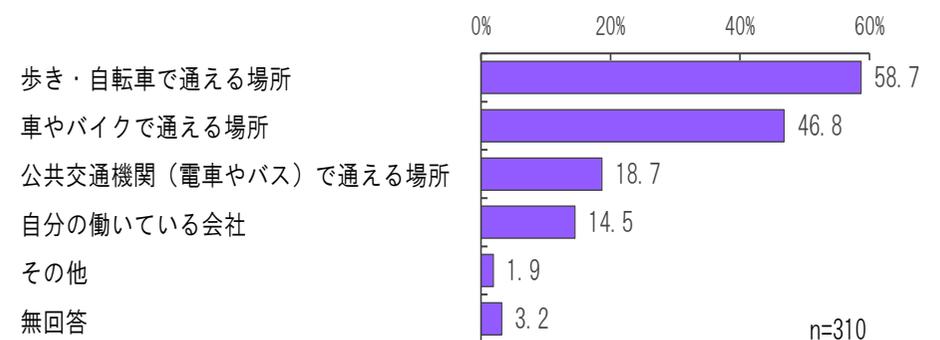
Q.いつ教室・学校があると良いか。（複数回答）



Q.どのような教室・学校に行きたいか。（複数回答）



Q.どこに教室・学校があれば行けるか。（複数回答）



#### アンケート結果

- ◆ 日本語教室に通っていない外国人の約半数が学習したいと回答。
- ◆ 日常や仕事、基礎から学ぶことができる日本語など、生活に必要な日本語を学ぶことのできる教室を望む声が多い。
- ◆ 教室は休日に利用でき、歩きや自転車で通える場所での開催希望が多い。

日本語教室の現状とアンケート結果から  
山梨県として日本語教育を推進していくために、

これまで日本語教育を受けることのできなかつた  
外国人に対し 学習できる機会・場を提供する必要がある。  
&  
日本語教育の質の向上を図る必要がある。

### 具体的な取り組み

外国人が気軽に自分で通うことができるよう、  
**市町村で実施する日本語教室開催の支援**を行う。

日本語教育の**専門的な知識を持つ人材**による、  
日本語教室の構築及び既存日本語教室への助言を行う。

到達  
目標

身近な地域で実施する日本語教室を増やし、時間的・地理的な制約のため  
日本語教室に通えていない外国人が質の高い日本語教育を受けられる環境を整える。

# 5. やまなし外国人活躍ビジョンの策定 ～外国人に選ばれる県「やまなし」～



**施策展開の戦略・体系**

○ 山梨県が「外国人に選ばれる」ためには、本県独自の魅力を確立し、発信することが重要。ポイントを絞って戦略的に取り組む。

	〔政策〕	〔施策〕	〔区分〕	〔今後の取組の方向性（主なもの）〕
安心して働ける環境づくり	1 きちんとした条件で働ける	適正な労働環境を整えます	I 重点分野	協議会を立ち上げ、県全体できちんとした条件で働ける企業を増やします。
	2 働く場（企業）が増える	(1)外国人が働きやすい企業を応援します (2)業種ごとに外国人を受け入れやすくします	II	外国人の雇用・定着にしっかり取り組む企業を手厚く支援します。
	3 外国人と企業がつながる	(1)留学生の県内就職を進めます (2)海外へ山梨で働く魅力を伝えます	II	インターンシップなどを活用して、県内企業とのマッチング支援を強化します。
安心して暮らせる環境づくり	1 日本語でコミュニケーションが取れる	(1)身近な地域で日本語を学べるようにします (2)子どもの教育を手厚くします	I 重点分野	身近な地域や働く場など日本語が勉強できる機会を増やします。 公立学校での日本語指導を充実し、高校の専攻コースなど新しい仕組みも検討します。
	2 生活しやすくなる	(1)悩みを相談しやすくします	II	地域の中で外国人が気軽に相談できるサポートを創設します。
		(2)情報をわかりやすく発信します	II	「やさしい日本語」の導入やスマホへの情報発信の仕組みづくりを進めます。
		(3)病院にかかりやすくします	II	多言語翻訳機の使用促進や外国語が使える病院の情報発信などを進めます。
		(4)子育て世代や高齢者を支えます	III	多言語翻訳機の使用促進や外国語が使える病院の情報発信などを進めます。
	3 地域で交流する	(5)住宅に入りやすくします	II	旅館の宿泊物件の拡大や公営住宅の入居基準の見直しなどを進めます。
(6)災害や事件に備えます		II	情報発信の方法を工夫して、災害時の情報提供を強化します。	
	(1)日本人住居の理解を深めます	III		
	(2)地域活動に参加しやすくします	I 重点分野	外国人と地域社会をつなぐサポーターやコーディネーターを配置します。	

## 【安心して暮らせる環境づくり（共生）】

### 政策1 日本語でコミュニケーションが取れる

<https://www.pref.yamanashi.jp/kokusai/vision.html>

#### 施策1 身近な地域で日本語が学べるようにします（区分：I）重点分野

##### （現状・課題）

- ・ 身近な地域で誰もが参加できる日本語教室はまだわずか。
- ・ こうした教室で教えているのはボランティアの方々が中心で、世代交代、人材育成・確保が課題。
- ・ 時間がない、遠くて通えない、レベルが合わないなど学習者のニーズに合っていない場合もあり。
- ・ 職場において日本語を学べる機会がある人もいるが、そのようなケースは少ない。

（今後の取り組みの方向性）

◎ 身近な地域における日本語教育の機会を増やすとともに、質を上げていきます。

# 6. 地域日本語教育推進事業の概要（令和2年度～）

## 地域日本語教育推進会議の設置

- ◇ 本県における日本語教育の方向性に関する協議、取組の検証や評価等



## 日本語モデル教室の実施

- ◇ 県内全市町村を対象に「日本語モデル教室」の主催者を募集

外国人住民は誰でも参加可

専門家によるバックアップ



## 地域日本語教育コーディネーターの配置

- ◇ 市町村や民間支援団体が実施する日本語教室の状況把握、指導や運営に関する助言、日本語教室モデル事業の支援等

※学校法人ユニタス日本語学校  
古屋玲子氏（R2～4）



## 日本語学習支援者（パートナー）研修会の開催

- ◇ 日本語学習を支援し、外国人と地域情報、生活情報をつなげる役割を担う人材を育成するための研修を実施

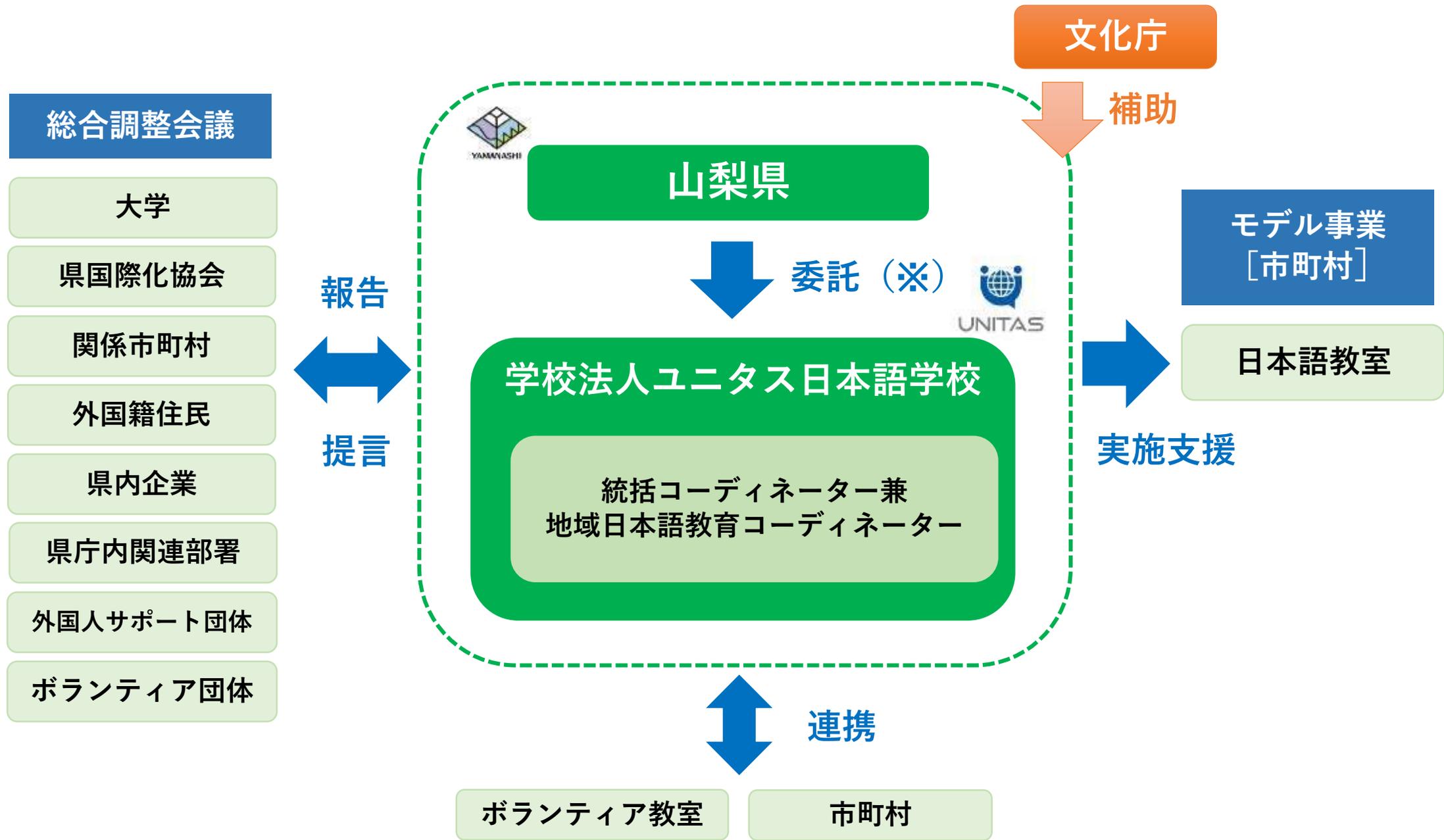


## 日本語指導団体訪問調査・連携

- ◇ 県内日本語指導団体訪問調査等を行い、県内における日本語教育を取り巻く問題を共有するとともに、日本語指導の課題についてアドバイス



# 7. 山梨県の日本語教育連携体制



※ 委託事業者は、専門的知識を有する人材を擁する事業者をプロポーザル方式により毎年度選定

## 8. 学校法人ユニタス日本語学校（委託事業者）の役割

ユニタス日本語学校

創立：1983年

業務：留学生、在留外国人への

日本語支援等（毎年20カ国以上からの留学生を受け入れ）

日本語教育の専門家集団

コーディネーター  
設置

モデル教室の  
企画運営

モデル教室の  
質の担保

市町村への啓発

既存日本語教室  
との連携

学習支援者の養成

### ❖ 日本語学校が携わる「ならでは」のこと

#### ① 日本語の専門家が安定的に確保できる

日本語学校はプロの教師集団

- 日本語教師が地域日本語教育コーディネーターになることで、日本語学習の質の向上が期待できる
- 日本語教育を体系的に捉えているため、学習者に合わせた適切で柔軟な対応ができる
- 体系的に捉える中で学習者のレベルを的確に判断できる

日頃から外国人に接しているため、外国人を取り巻く現状や背景理解、異文化理解が基盤として備わっている

#### ② 多言語に迅速に対応できる

## 沿革

- 1970年 ユニタス設立（山梨県甲府市）
- 1974年 ユニタス外語学院設立
- 1983年 ユニタス日本語学校設立
- 2007年 ユニタス日本語学校東京校設立
- 2017年 学校法人ユニタス日本語学校となる
- 2020年 学校法人ユニタス日本語学校言語研究所設立  
現在に至る

## 理念

- みんなで力を合わせ、国際的な人材を育てるために  
思いやりを持って愛情深く生徒を支援する学校
- 一校名はキーワードの頭文字から「UNITAS」一

## 職員 2022年4月30日現在

職員49名（常勤職員18名、非常勤職員31名）うち教員36名

- ◆スタッフは日本人をはじめ中国、ベトナム、韓国籍他、併設する外語学院を加えると15か国語の通訳翻訳に対応
- ◆全教員が「日本語教育の告示基準」教員要件を満たしたプロの教師

## 定員及び在籍学生

- ◇定員：520名
- ◇269名在籍（2022年4月30日現在、レギュラークラス在籍者）  
在留資格内訳：留学生243名、定住者他26名  
留学生国籍：36の国と地域  
〈主な国籍〉中国、ベトナム、ロシア、タイ、フィリピン  
韓国、台湾、香港、アメリカ、ブラジル  
メキシコ、パナマ、イギリス、フランス  
スペイン、スウェーデン、ラトビア  
サウジアラビア、イスラエル、インド  
コロンビア等
- ◇入学待機者：約60名（2022年6月までに入国予定）
- ◇2022年7月入学予定者：約100名  
－留学生の日本語力と進学先の希望に柔軟に対応できるよう  
4学期制（4月・7月・10月・1月入学）を導入



## 日本語教育プログラム

### 【レギュラープログラム】

- ◇初級から上級まで**6段階**のレベル別プログラム
- ◇各**レベル200時間**の学習時間と自律学習で日本語力を定着
- ◇レベルに応じ**到達目標とCan Do**を設定し、進級の**評価基準**としている
- ◇日本語を**理解する力**（聴く力、読む力）と**運用・産出する力**（話す力とやりとり、書く力）を同時に伸ばすカリキュラム
- ◇学生の目的に応じて**学びを選択**できる授業や**課外授業**も充実  
（例：大学院/大学進学クラス、レベル別会話クラス、EJU対策など）

### 【その他プログラム】

- ◇企業向けレッスン  
ビジネス日本語、プレゼンテーション、会話等、クライアントの希望に沿ったカリキュラムを提供
- ◇定住者向け「生活者の日本語」クラス
- ◇高等教育機関におけるクラスレッスン
- ◇児童生徒のための日本語  
学校で使用する日本語と表現、教科学習サポート
- ◇地域日本語教室

## 卒業生の進学先

本校はこれまでに約3,200名の卒業生を輩出しています。

- 〈大学院〉 東京大学、京都大学、大阪大学、東北大学  
九州大学、一橋大学、東京工業大学、筑波大学  
早稲田大学、上智大学、明治大学、法政大学他多数
- 〈大学〉 名古屋大学、山梨大学、静岡大学、埼玉大学  
慶応大学、上智大学、国際基督教大学、法政大学  
学習院大学、同志社大学、帝京大学 他多数

（直近3年間実績）

専門学校進学、日本企業への就職を果たす学生もいます。  
日本語のブラッシュアップを目的に留学する学生もおり、  
日本語能力試験合格や会話力の向上など学生一人一人の  
人生目標に寄り添った指導を行っています。

クラス担任（1名）担当（2名）の計3名を配置し、学習指導  
進学指導、生活相談にきめ細かく対応しています。



母校を訪れる卒業生が多く、それが職員一同の喜びと励みになっています

## 日本語教師研修

山梨県内においては日本語教師経験者や有資格者が限られています。また、日本語教師にとっての学びの機会も決して充実しているとは言えません。そこで、本校では新人教師からベテラン教師に至るまで、手厚い研修制度を設け、教育の質の向上を図っています。新人教師には半年から1年程度をかけて指導教師が伴走し、日本語教師としての心構え、教案指導、模擬授業指導、クラス運営の相談などのサポート制度が整っています。さらに、全教師は3か月毎に短期目標の設定と自己評価を実施。1年に1回は主任教員による他者評価とフィードバックを行っています。それに加え、年4回の学内勉強会と年1回の外部講師による専門的な学びの機会を通し、相互に支えあいながら日本語教師として、日々研鑽を積んでいます。



授業風景



教師勉強会の様子 2018年6月

## 学内交流・特別学習

- ◇日本語学習の成果を披露する校内弁論大会、バーベキュー夏祭り、スポーツ大会、クリスマス会、地元の地域住民も加わった餅つき大会、小旅行など、日本の四季や文化・行事が感じられるイベントを定期的実施しています。
- ◇卒業前には週に1回、日本文化を体験する機会も提供しています。



※コロナウィルス感染症拡大前に撮影

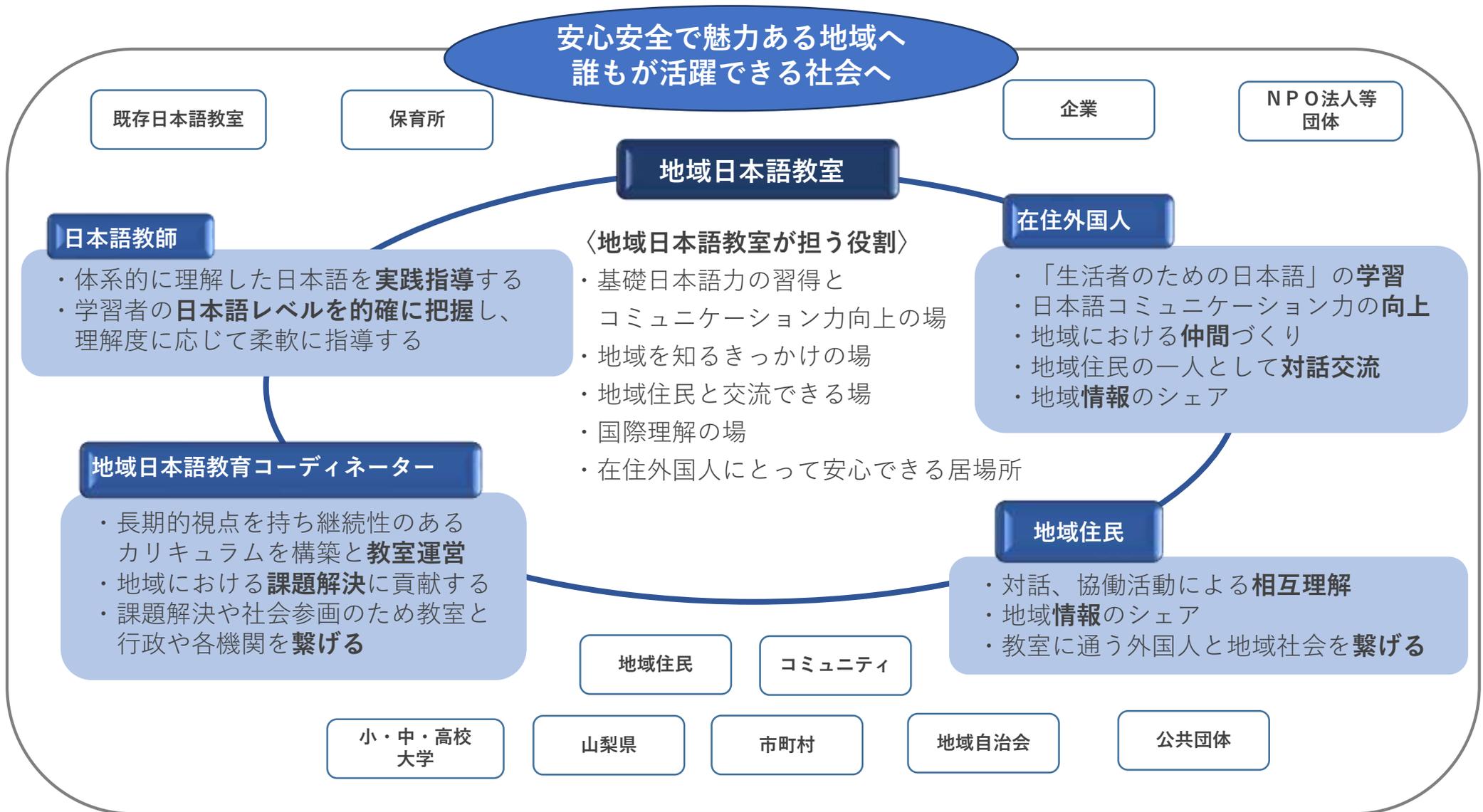
- ◇校内を開放して「チャットタイム」を実施。

本校学生と高校生や地域の方が日本語で日常会話のやりとりを楽しむ時間を設けています。



# 9. 日本語モデル教室（実施方針）

安心安全で魅力ある地域へ  
誰もが活躍できる社会へ



既存日本語教室

保育所

企業

NPO法人等  
団体

地域日本語教室

在住外国人

日本語教師

- 体系的に理解した日本語を**実践指導**する
- 学習者の**日本語レベルを的確に把握**し、理解度に応じて柔軟に指導する

〈地域日本語教室が担う役割〉

- 基礎日本語力の習得とコミュニケーション力向上の場
- 地域を知るきっかけの場
- 地域住民と交流できる場
- 国際理解の場
- 在住外国人にとって安心できる居場所

- 「生活者のための日本語」の**学習**
- 日本語コミュニケーション力の**向上**
- 地域における**仲間づくり**
- 地域住民の一人として**対話交流**
- 地域**情報**のシェア

地域日本語教育コーディネーター

- 長期的視点を持ち継続性のあるカリキュラムを構築と**教室運営**
- 地域における**課題解決**に貢献する
- 課題解決や社会参画のため教室と行政や各機関を**繋げる**

地域住民

- 対話、協働活動による**相互理解**
- 地域**情報**のシェア
- 教室に通う外国人と地域社会を**繋げる**

地域住民

コミュニティ

小・中・高校  
大学

山梨県

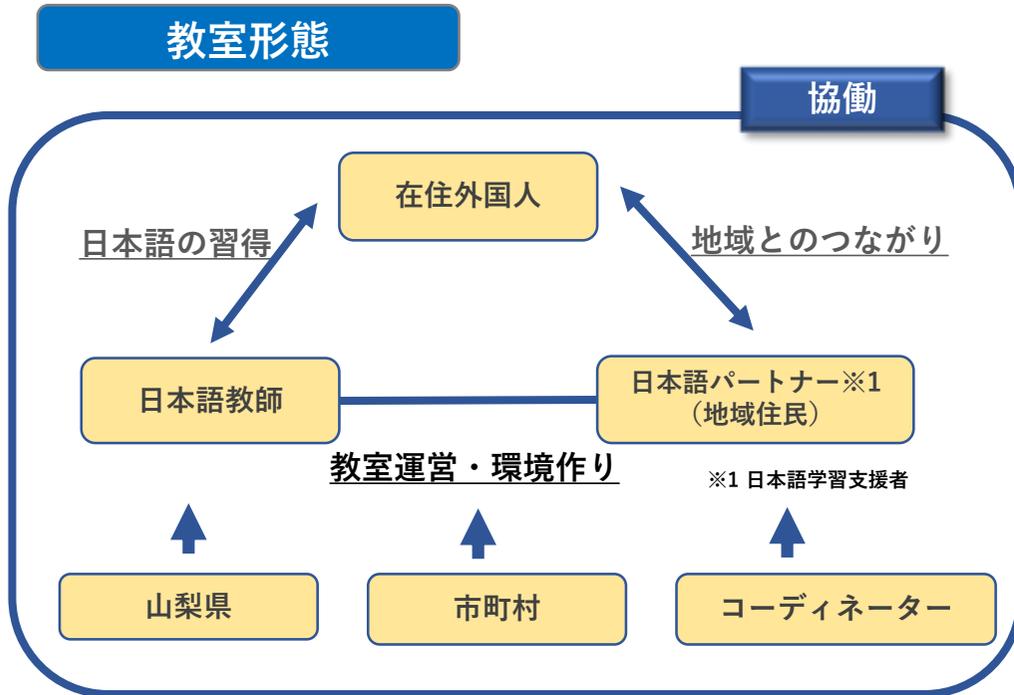
市町村

地域自治会

公共団体

地域日本語教室は多文化共生社会の最前線であり、地域づくりの核といえる場です。在住外国人は日本語能力の向上により社会参画の基盤を作り、地域住民は多文化社会への理解と意識醸成に基づく行動変容をおこします。また、教室は個や地域が抱える課題解決の役割も担っています。教室を拠点として広く住民同士や機関がつながることにより、「安心安全で魅力ある地域・誰もが活躍できる社会」の創生に貢献するのが「地域日本語教室」の役割です。

# 10. 日本語モデル教室（実施形態）



日本語教室の学習対象者は自治体に在住する外国人全員（学生除）であるため、様々な日本語レベルの学習者が集う。教室では個々の学習者に合った学びが得られるよう、日本語レベル別にグループを編成。グループには日本語パートナーや自治体職員が入り、コーディネーターのサポートのもと、日本語の学習支援や地域情報の共有・相互理解を目的とした対話交流活動を行っている。

## 【日本語教師】

第二外国語の習得技術としての日本語教育を体系的に身につけた専門家。豊富な経験と指導力で日本語を指導。異なる背景や日本語レベルの学習者一人一人に合わせた指導と教室運営の担い手。言語調整の模範話者としての役割も担う。

## 【日本語パートナー】

「寄り添う人・つなげる人・一緒に社会をつくる人」と定義し学習をサポートするだけでなく在住外国人と地域情報、生活情報をつなげる役割を担う。誰もが安心安全に暮らす地域づくりに貢献する異文化理解者であり、地域にあっては多文化共生社会実現の身近な先導者。



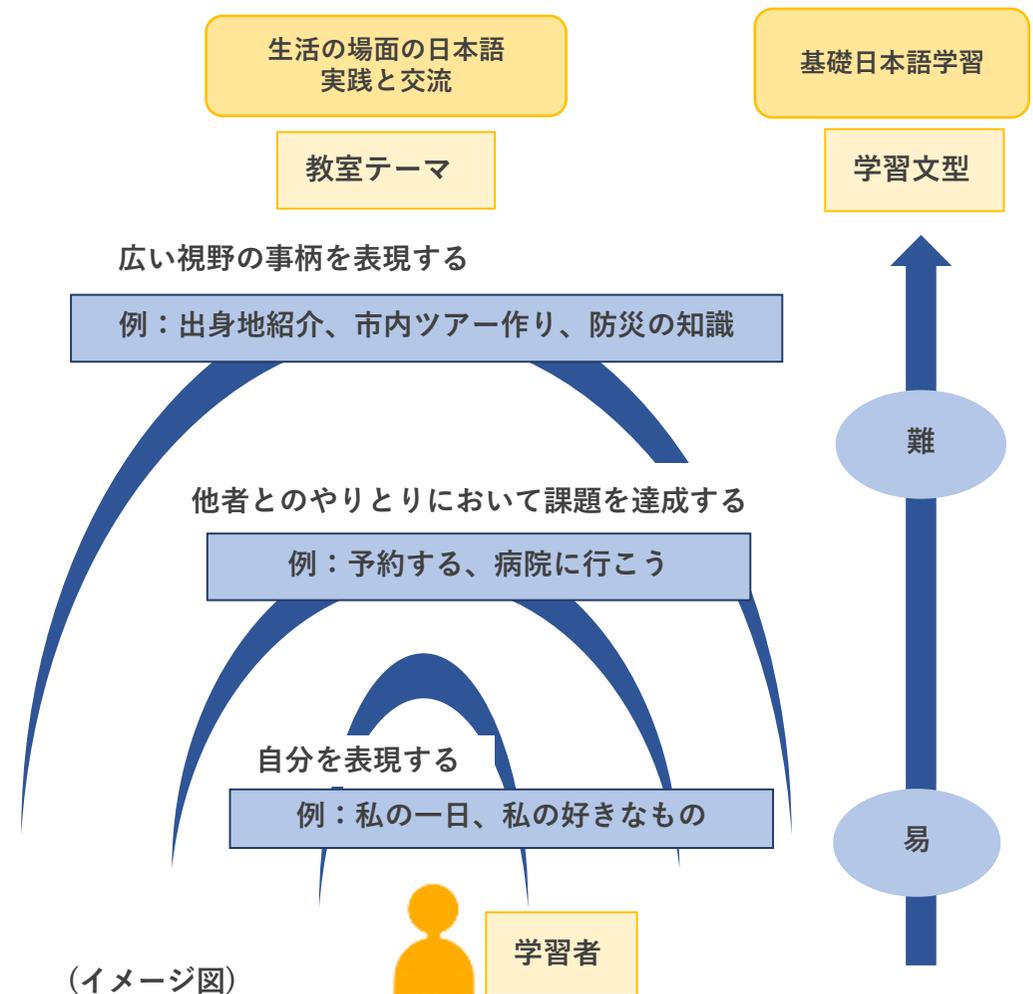
# 1.1. 日本語モデル教室（カリキュラム）

## カリキュラム方針

- 1. テーマを設定した 1回完結型**  
 毎回参加できるとは限らない学習者が、  
 いつ教室に来ても参加できるカリキュラム
- 2. 日本語レベルに差があっても一緒に学習できる**  
 日本語レベルに応じてグループを編成  
 グループ別に差異を持たせた教材と活動内容
- 3. 基礎的な日本語が身に付く**  
 視点と学習表現が次第に広がるテーマ設定  
 各テーマで扱う語彙や文型のレベルを緩やかにレベルアップしていく
- 4. 実生活に即した場面シラバス**  
 実生活ですぐに応用できる真正性のある  
 やり取りと表現

## 教室で扱うテーマとレベル

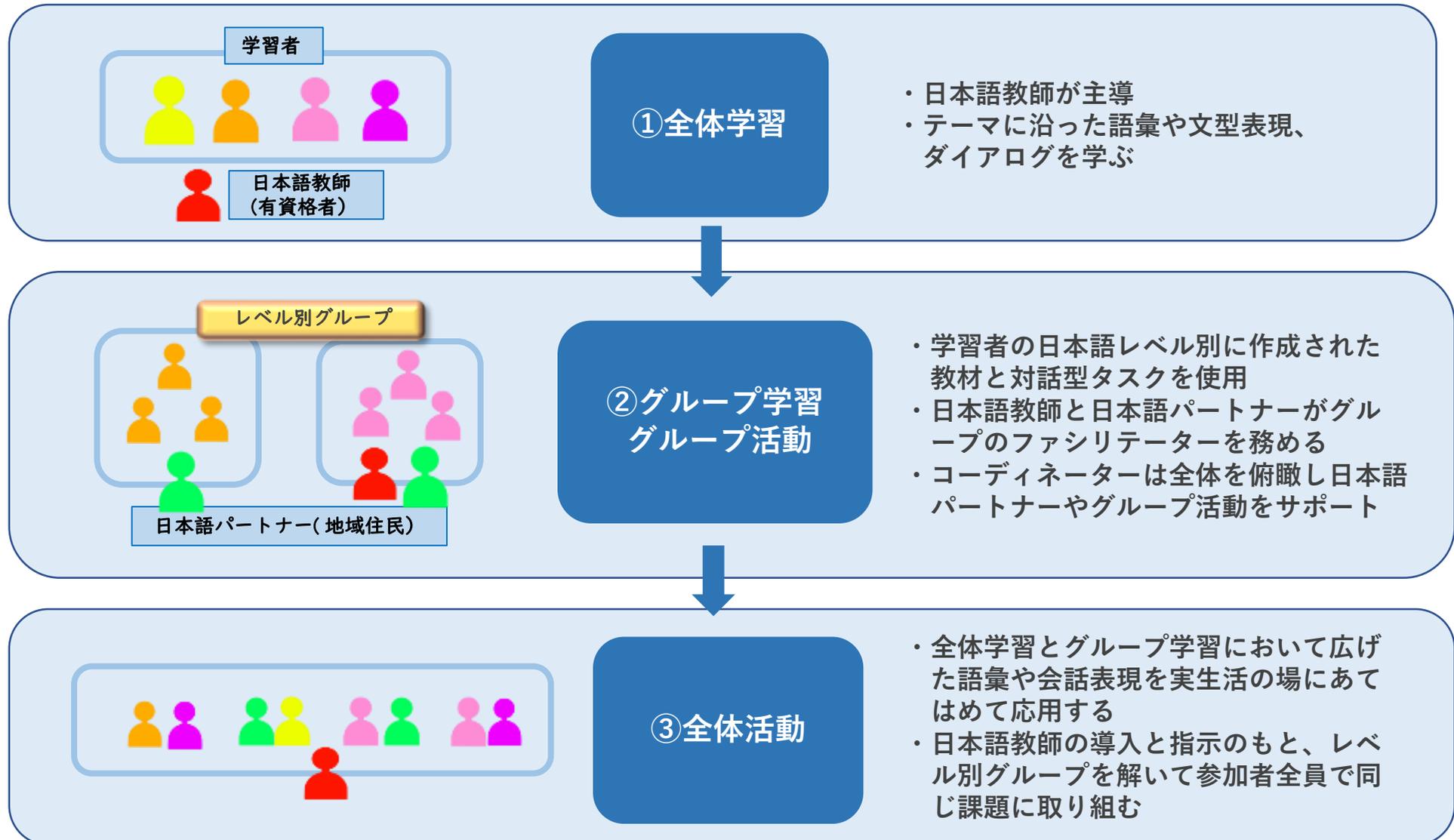
「生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的なカリキュラム」（文化庁）に基づいてカリキュラムを作成。CEFR A1、A2レベルを中心にコミュニケーション能力の向上と相互理解を図っている。



(イメージ図)

## 1 2. 日本語モデル教室（対面教室の様子・1ターム2時間×15回①）

教室スタート前に学習者一人一人にインタビューを実施。CEFR※<sub>2</sub>に基づき日本語レベルを評価。レベルに応じたグループを編成。教室では全員が同一テーマを扱うが、教材やタスクはレベル毎に作成。レベル別学習・活動の時間を設けることで学習者は個々に必要とされる日本語を学ぶことができる。また、教室が進むにつれ向上する日本語能力と学習者の自己開示によりもたらされる個の背景に応じて、タスクや教材を柔軟に準備している。



※2 CEFR(外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠：言語の枠や国境を越えて外国語の運用能力を同一の基準で測ることができる国際基準)

## 1 2. 日本語モデル教室（対面教室の様子・1ターム2時間×15回②）

### ①全体学習

日本語教師：日本語教育の専門性を活かし、言語構造的な能力と社会言語能力を向上させる。

日本語パートナー：地域住民。学習者との対話により社会言語能力向上の支援を行う。

コーディネーター：実社会のコミュニケーション活動を想定しコースデザイン、教材開発等、運営全般。



- A 1 グループ…初心者グループで日本語が全く通じない。文字も初めて学習する。初期学習から簡単なやりとりの完成を目指す（例：自己の情報を紹介する、自分や相手の情報について初歩的やりとりをする）
- A 2 グループ…身近な日常の事柄について簡単な日本語で情報交換できるレベルを目指す（例：買い物、地域のスポットなど日常的な範囲・過去の経験についてよく使用される表現でやりとりする）
- B 1 グループ…社会で行われている身近な話題のやりとりが自然にできることを目指す（例：経験、出来事、意見の理由について説明する、身近な情報を詳細に聞き出す）

# 1 2. 日本語モデル教室（対面教室の様子・1ターム2時間×15回 ③）

## ②グループ学習 グループ活動

初心者グループでは日本語教師がファシリテーターとなり主導する。日本語教育の専門家としてのスキルが活かされ、学習者の学習効果が高まった。

A 1  
初心者グループ

日本語教師(有資格者)



日本在住歴20年のB1レベル話者であるが、文字能力に劣ることが課題のため、コーディネーターの指示により音と文字をつなげるためのタスクを追加。文字が読めることで発話矯正が進むという相乗効果がみられた。



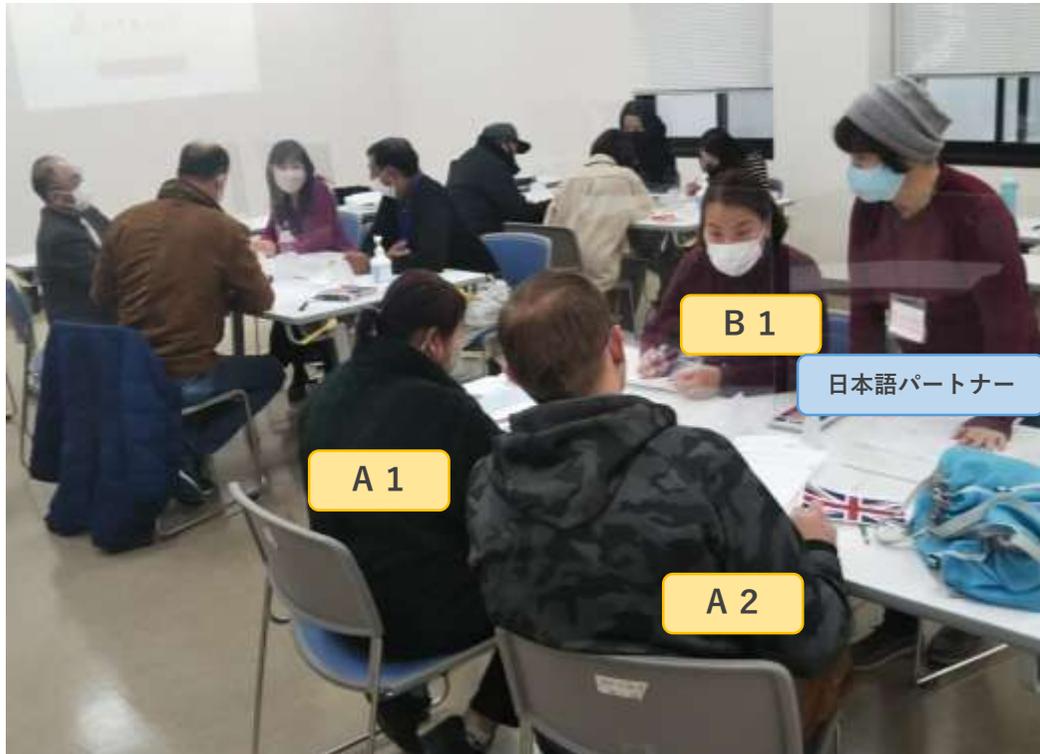
A 2レベルを目指す学習者用に作成された教材で活動する。自己を表現したりロールプレイをするなど、毎回異なるタスクをこなしながら、日本語能力を向上させていく。



教室活動中に学習者から出された疑問に答える市役所職員。市より発送された通知を教室に持参する学習者も多く、教室は在住外国人の支援の場にもなっている。

# 1 2. 日本語モデル教室（対面教室の様子・1ターム2時間×15回④）

## ③全体活動



日本語レベルが異なる学習者同士でグループを再編成。この日のテーマは「わたしの出身地」。全体学習で基礎表現、グループ活動でQAタスクを中心に言葉を増やした上で全体活動に臨んだ。全体活動では学習者同士の学び合いと助け合いも頻繁に見られる。教室後には自律学習を促すための課題を提示。この回ではプレゼンテーションを作り、後日、教室で披露した学習者もいた。



相手を何度も変えてペア練習。A1学習者が困っている場面で同じ国のB1学習者が入り母語を媒介に支援。



テーマによってバラエティー豊かな活動を展開する。

地域の防災をテーマとした回では、同じ地区に住む者同士で活動。教室で得た知識を所属コミュニティに発信することを促し、教室に参加できない方への波及効果も狙った。



日頃使用している日本語が正しいかどうか確認できることも学習者の学びの一つである。

# 1 3. 日本語モデル教室（オンライン教室の様子・1ターム2時間×15回）

感染症拡大の状況下においてオンラインによる地域日本語教室を確立した。（R3年度実績：2自治体5クラス合計48回）  
 オンライン教室においても対面教室の基本的流れを踏襲し日本語の基礎を学び運用するパートと地域住民である日本語パートナーとの対話を通して情報をシェアするパートの構成とした。学習者全員が日本語学習の継続を希望した。地域住民においては「外国人も同じ地域に住む住民の一人である」という意識の高まりがみられた。オンラインツールを使用しつつも教室活動を通じて参加者同士の繋がりが生まれ、実生活での親交が続いている。



掲示板機能を持つオンラインツールを活用

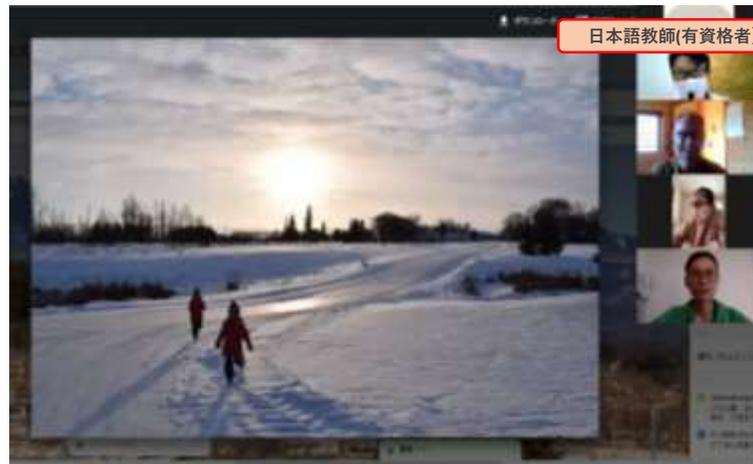
教室がない日も全員がメッセージを送り合い自律学習の促進と交流のきっかけづくりに大きな役割を果たした

A 2グループ



日本語パートナー

グループ分け機能を駆使することで様々なスタイルの学習に挑戦できた



日本語教師(有資格者)

オンラインの特性を最大限に活かした教室活動

地域活動に参画



日本語教室として地域のイベントに毎月参加している。教室参加者が中心となって企画運営。メンバーが持つ特技や母語を活かした社会参画が始動した。

# 14. 日本語モデル教室（参加者の声①）

## 参加者の声

教室終了後インタビューより  
(日本語語彙については一部意識あり)



スーパーへ行ったり、外に出るのがこわい。ずっと、うちにいます。でも、ちょっとだいじょうぶ。いま、子どもの保育園に行きます。(フィリピン・20代)

日本語の勉強がよかった。近所の人と日本語で少し話せるようになったし、会社でも翻訳機を使わないで同僚と話せるから本当にうれしい。(アメリカ・40代)



30年以上、日本にいるけれど字がわからない。教室でひらがなを覚えて、話し方を練習して、毎日が楽しくなった。私は明るい人になった。(ブラジル・60代)

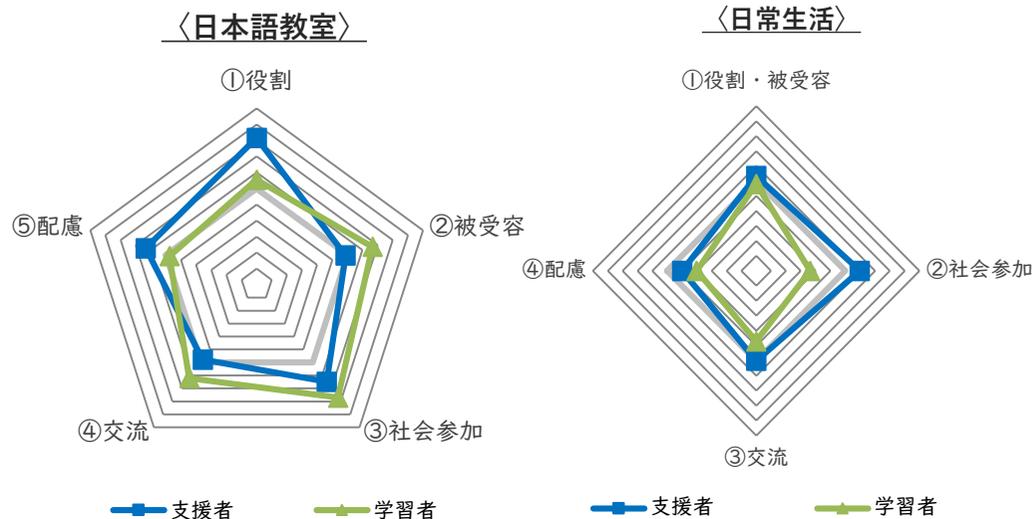
街で見かける外国人に対する見方が変わった。外国人が困っていたら声をかけてみようと思うようになった。もう少し外国人がわかるような話し方を意識したい。(日本語パートナー・30代)



報道で取り上げられていること以外にも外国人を取り巻く課題はあり、その課題に対して私たちは手を貸せるということに気づいた。(日本語パートナー・50代)

## 多文化社会型居場所感尺度調査（NPO法人CINGA開発）

【令和3年度A市日本語教室における結果】



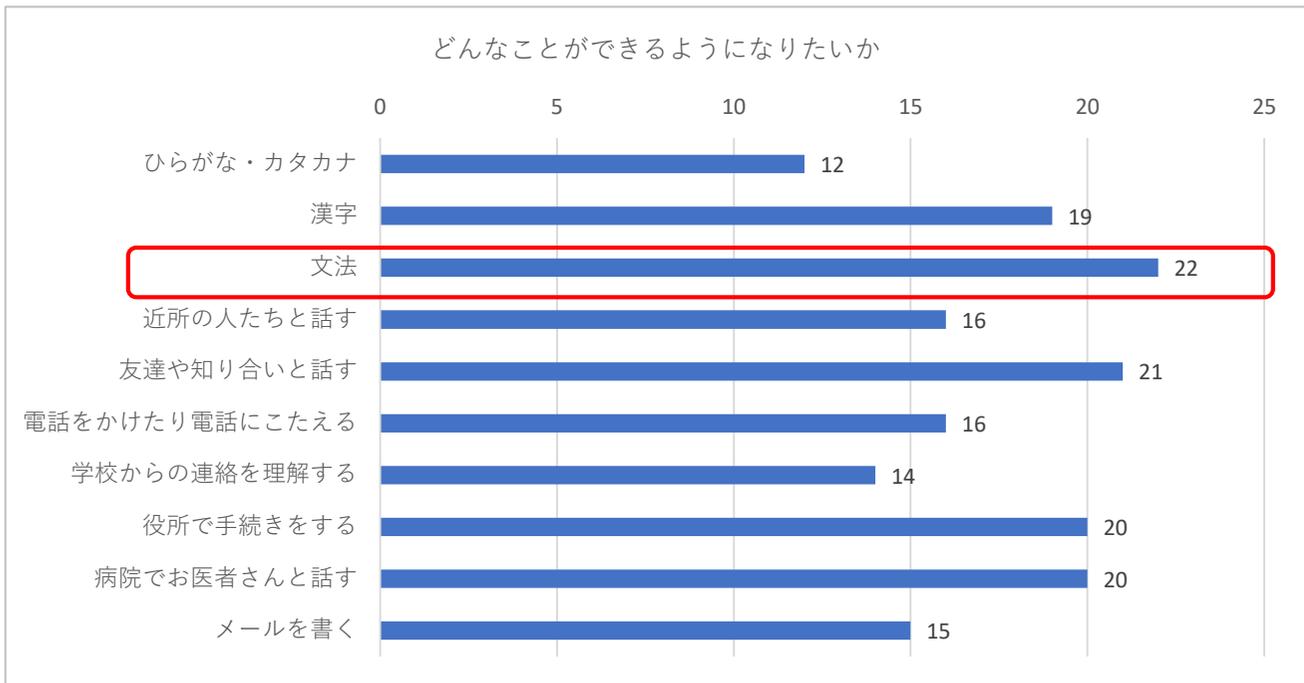
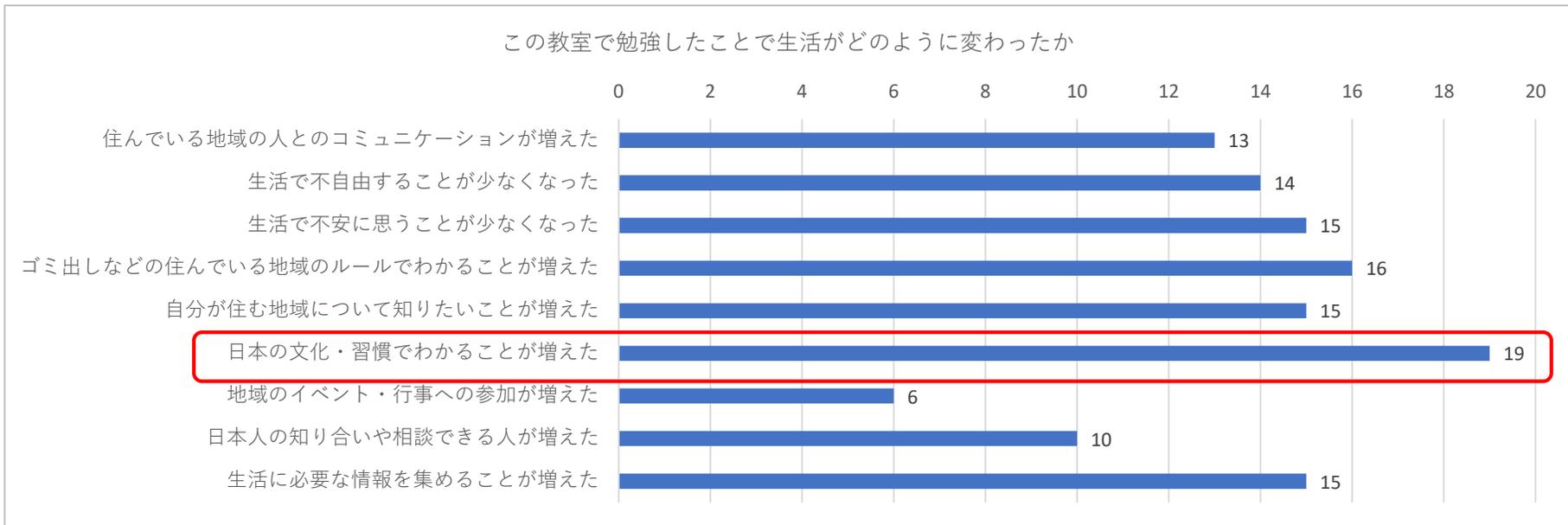
グラフの広がりが大きければ大きいほどその場に自らの居場所があると感じ、場を肯定的に捉えていることがわかる指標である。

- ❖ 学習者は日常生活において周囲に配慮され受け入れられている感覚をあまり抱いていないが、日本語教室においては疎外感や差別感を日常生活ほど感じていない。この市の教室は自身の存在を受け止めてくれる場所であり、安心して参加できる場であるといえる。
- ❖ 支援者（日本語パートナー）は日常生活に比べ日本語教室の方が全体的にグラフが大きいことから教室は自身にとっての新たな居場所となっていることもわかった。特に教室のために、他者のために役に立っているという意識が強く芽生えていることがわかる。

# 14. 日本語モデル教室（参加者の声②）



## 学習者アンケートより



◆地域の話題を多く取り上げた教室であったが、学習者にとっては身近な地域や生活を通し、その奥にある文化理解につながっていることがわかった。

◆コミュニケーションの土台となる基礎的な日本語学習の必要性を感じている学習者が多い。また、文字理解にも時間を要する傾向があることもわかった。

# 15. 日本語学習支援者研修会・団体連携

外国人を取り巻く現状や外国人と接する際に意識したいことなど、地域日本語教室に携わる上での基礎知識の獲得を目的に開催。第1回は既存教室の関係者と自治体職員及び日本語パートナー、第2回は日本語パートナーを対象に実施した。

	日程	講師	参加人数	研修内容
1回	2021年10月17日(日) 10:00～12:00 ※オンライン開催	新居みどり氏 (特定非営利法人 国際活動市民中心理事)	37名	「地域日本語教室、日本語教師・支援者の役割を考える」 ・在住外国人の現状と課題 ・多文化共生社会で地域日本語教室が担う役割
2回	2021年11月23日 (火・祝) 13:00～15:00	古屋玲子 (山梨県総括兼地域日本語 教育コーディネーター)	16名	「待つ・聴く」と「伝わる日本語」 ・外国人とのコミュニケーションスキル ・日本語教室の教材を使用した模擬教室活動 ・パートナー同士で気づきを共有

【第1回研修会】



地域日本語教室の存在意義の共通理解を図った。日本語パートナーは、教室への関り方を考える機会になった。また、県事業の推進状況も広く周知できた。

【第2回研修会】



理論と実践(外国人と模擬教室)の2部構成。模擬教室後の調査では、日本人側の発話はA1・2レベルの学習者には伝わりにくい傾向があることが明らかになった。

## 1 6. 事業の成果と課題、今後の方向性

### 成果

- ✓ 本県における地域日本語教育推進事業の**連携体制の整備**
- ✓ 日本語教室設置市町村数が **7市町** から **11市町村** へ
- ✓ 未設置市町村での設置に向けた**機運の醸成**
- ✓ **学習支援者**（日本語パートナー）数の**増加**

空白地域解消  
へ前進

### 課題

- ✓ **日常的・継続的**な教室の開催
- ✓ カリキュラムと教材の充実
- ✓ **教室評価の測定方法**の検討
- ✓ 教師（**生活の日本語**）の養成
- ✓ **日本人住民側**の意識醸成

更なる  
空白地域解消  
へ向けて

### 今後の方向性

- ✓ 小規模市町村単位での日本語教室の広域化（**広域連携**）
- ✓ 日本語学習のICT（**オンライン対応**）推進
- ✓ 教育プログラム導入による日本語学習支援者の**人材育成強化**

共生社会の実現  
を目指して

## 17. 日本語学校・日本語教師が地域日本語教室に携わる意義

### 日本語学校



- ✓ 専門的視点を持った質の高い日本語教育
- ✓ 日常が多文化理解実践の現場
- ✓ 日本語教育人材を安定的に確保
- ✓ 日本語教育人材育成
- ✓ 外国人を取り巻く背景を理解

### 日本語教師



- ✓ 第二外国語習得のための日本語教育を体系的に習得
- ✓ 学習者の日本語レベルを短時間で判定可能
- ✓ 教材作成（テキスト代無料）
- ✓ 様々なレベルの学習者を日常的に指導
- ✓ 外国人を取り巻く背景を理解
- ✓ 一人一人が必要とする学びに柔軟に対応